



これからの「ひと・まち」に向けて

代表理事 工藤 春代

市民シンクタンクひと・まち社は1998年、東京・生活者ネットワークの20周年記念事業として、設立されました。生活者ネットの「議員を職業化・特権化しない」というルールのもと、ローテーションを実現した池田敦子を代表に、本当の生活の豊かさを求め、市民の手による政策づくりと暮らしやすいまちの実現のためにたくさんの想いを含んで始めました。その後は大河原雅子、そして今年度、三代目の代表を私が担うこととなりました。

この10年の間に内部組織の変革や社会保障制度の改革があるなど、内部的にも社会的にも大きな動きの中で、現在では都の福祉サービスの第三者評価機関となり、事業性も安定してきたところです。これも「ひと・まち」持ち前の明るさと粘り強さ、そして多くの方々のご支援のたまものと感謝しています。

現在では福祉に特化した活動となっていますが、介護保険の利用者調査をは

じめとした各種の調査は、市民調査を基本に市民側に寄り添った政策づくりにつながることを実感し、市民シンクタンクとしての必要性を改めて感じています。

人の生活は高齢者も子どもも境界線がないのが現状なので、今後は「福祉」を「ひとが幸せになること」と広く捉え、これからの「ひと・まち」としては、子ども分野にも目を向けて活動を展開していきたいと思っています。現に、各自治体では一時保育や親子サロンなどの保育園とは違ったニーズが表面化し、緩やかな人のつながりが求められており、地域社会での市民の活動に期待がかかっています。また、子ども条例の制定が広がっていますが、まだまだ誤解も多く浸透するには時間がかかりそうです。日本の子どもの「自己肯定感」の低さは際立っており、大人自身も自尊感情が低いのではないのでしょうか。

今後、具体的には何ができるのか、形のあるものはまだ見えていませんが、多くの方々から知恵をいただき、それぞれが自身の人生を豊かに生きられるような社会を目指していきたいと思っています。

10周年という節目に、たくさんの方々とお会いし、語り合い、有意義な時間を過ごしたいと思います。今後も進化する「ひと・まち」を見守って頂き、ご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。



目黒雑子上目黒保存会の一員として地元のお祭りに参加